（学年）第２学年，（教科・科目）HR 活動・人権教育　　協働学習

（単元）多文化共生のためのコミュニケーションのあり方について

（本時のねらい）
異文化間のコミュニケーションを図る際に有効と考えられるアサーティブな表現方法について体験的に学習する。自己表現の方法について理解を深め，アサーティブな表現を用いたコミュニケーションにより対立を解消する新提案を打ち出す体験を通して，自分も相手も尊重しようとする意識を高める。

（ICT の活用方法）
パワーポイントで作成したスライドを用いた説明を行うことで視覚的に理解させる。また，生徒１人１台端末を活用し授業支援クラウドアプリに設定したアンケートを実施することでクラスの傾向を全体で共有する。加えて，各班の意見を全体で共有する際には，データでのやりとりを行い，電子黒板で表示することにより活動の効率化を図る。

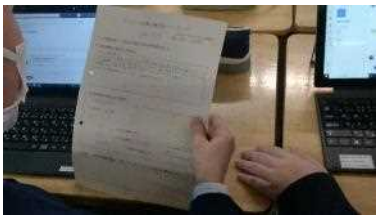
（本時の展開）

時間	学習内容	指導上の留意点	ＩＣＴ活用方法
導入 ７分	・教師の示す場面を見て，「どう返答する？」との問いに回答する。 【Activity1】	・日常生活を振り返り答えさせる。	・生徒１人１台端末を活用して授業支援クラウドアプリで回答する。
展開 ３３分	・Activity1 の結果を共有する。 ・自己表現の方法（攻撃的自己表現，自己否定的表現，アサーティブな表現）について知る。【Activity2】 ・アサーティブな表現が人間関係を築く上では好まれること，アサーティブな表現で大切な３要素を入れて考えることを知る。 ・どのように言えばよいのかを考え，グループで意見を共有し，全体で発表する。 【Activity3】	・表現の受け取り方は人それぞれ違うこと，表現方法には３種類あることを指導する。 ・自分も相手も大切にするということを認識させる。 ・「私 OK，あなた OK」になるように提案することを意識させる。	・教員端末を接続した電子黒板にアンケート結果を投影する

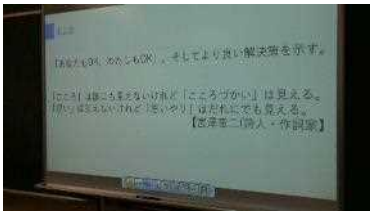
	・「返信してみよう」を行う。【Activity4】 ・Activity4 の結果を共有する。	・返信前にワークシートに構造や意見をまとめさせる。	・１人１台端末から意見を入力させる。教員端末で回答結果を電子黒板に投影する。
まとめ １０分	・本時の授業を振り返り，考えたことや感じたことなど感想を書く。	・問題解決の展望や希望がもてるようにまとめを行う。	

（授業の様子）

アンケートに回答



グループ活動



スライドを用いて説明

（生徒の反応と課題，改善を要する点）

授業支援アプリのコミュニケーションツールを活用することで，匿名のアンケートを実施しクラスの傾向を調査することができた。選択式の問題を提示したが，生徒１人１台端末を使用し，答えることができていた。生徒端末を活用することで，一部の生徒の意見だけでなく，クラス全員の意見を把握することが可能になったと思われる。しかし，生徒全員から回答を得ることを重視した結果，二者択一の問題に答えきれない生徒にとっては，個別の支援が必要になった。班の意見を全体で共有する際に，意見をデータ化し電子黒板に提示することで視覚的に示すことにしたが，生徒端末の操作上の問題点などを想定していたよりも時間を要する結果となった。操作性の問題点が解消されれば気になることはないだろうが，今回の授業を振り返れば生徒に黒板に記入させる，ホワイトボードで提示するなど生徒端末以外の方法が有効であったのではないかと感じる。指導者の技術不足もあるが，本時の構成であれば生徒端末を用いたコミュニケーションツールは必要なかったのではないかという意見も頂いた。生徒端末に拘らず，従来の方法との共存することで改善していきたい。